

「獲易からざる才女」

えやす

樋口一葉

「書いてゐる事は八面玲瓏」

はちめんれいろう

平塚らいてう



与謝野晶子

「何事にも人真似をしない」



目次

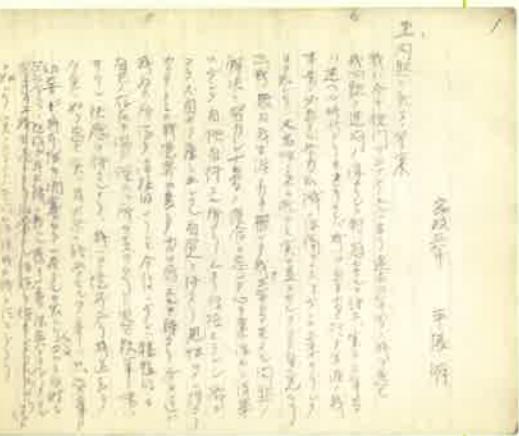
論考『『礼儀小言』一論号、元号、即位式』山崎一穎(跡見学園女子大学名誉教授、森鷗外記念会顧問)／展示会場から／展示のお知らせ 特別展「一葉、晶子、らいてう——鷗外と女性文学者たち」／展示報告／地域情報／活動報告／カフェ便り／これからの催しもの／2019年度前期 開館カレンダー／編集後記



# 展示のお知らせ



（上）「文藝倶楽部」12臨時増刊 関秀小説博覧会  
明治28年12月  
一葉ほか、当時の女性文学者の特集号。  
「明星」7号 東京新詩社 明治33年10月  
「青輪」1巻1号 青輪社 明治44年9月

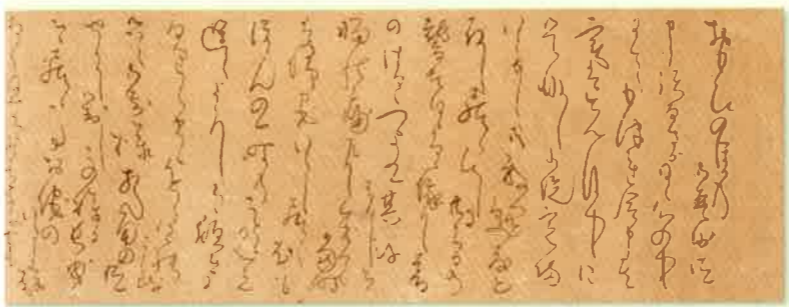


平塚明(らいてう)「実践倫理」答案 日本女子大学成瀬記念館蔵  
学生時代に受講した講義「実践倫理」の答案。

## 特別展 「一葉、晶子、らいてう」 —— 鷗外と女性文学者たち ——

小説家・樋口一葉(1872-1896)、歌人・与謝野晶子(1878-1942)、評論家・平塚らいてう(1886-1971)——明治・大正期を代表する女性文学者三人を、森鷗外(1862-1922)は「女流のすぐれた人」(『与謝野晶子さんに就いて』)と高く評価しています。現在は文学者の性別が意識されることも少なくなりませんが、明治・大正期の女性文学者は「闊秀作家」「女流作家」と呼ばれ、男性中心の文学者たちの中で区別されてきました。一葉、晶子、らいてうもそうした環境で自身の表現を模索し、小説や詩歌、評論を以て時代と向き合いました。

三人が世に出た事情や時期は異なり、表現の手段もさまざまです。鷗外は女性文学者たちが表現することを好意的にとらえ、常に変わらず見守ってきました。鷗外が彼女たちに向けた眼差しは、鷗外の評論や日記、書簡、そして彼女たちの証言からも知ることが出来ます。本展では、一葉、晶子、らいてうと鷗外の交流や接点を交えながら、活躍の場となった雑誌、受けた教育、人物交流などの視点をおして、三人の文業や周辺の女性文学者を展覧します。明治・大正期に花開いた女性文学者たちと、彼女たちを見つめた鷗外が織りなす近代文学史を紹介いたします。



樋口一葉筆 三宅花園宛書簡  
明治25年8月4日付(部分)  
台東区立一葉記念館蔵  
同門の三宅花園に宛てた書簡



『中央公論』27年6号  
明治45年6月  
『与謝野晶子さんに就いて』掲載  
与謝野晶子、与謝野寛、長谷川天来筆  
鷗外宛 明治45年7月28日消印  
渡吹した晶子、寛らが、パリから鷗外に宛てた書簡。

### 関連事業のお知らせ

展覧会期間中に関連講演会を予定しております。事前申込制、定員50名です。申込方法は7頁をご覧ください。

#### 近代を奔る

「一葉、晶子、らいてう」

講師 三枝昂之氏  
(歌人・山梨県立文学館館長)

日時 6月2日(日) 14時~15時30分

会場 文京区立森鷗外記念館2階講座室

定員 50名(事前申込制)

料金 無料(参加費と本展の観覧券(半券可)が必要)

申込締切 5月17日(金)必着

#### 「森鷗外と新しい女たち」

講師 尾形明子氏(文芸評論家)

日時 6月8日(土) 14時~15時30分

会場 文京区立森鷗外記念館2階講座室

定員 50名(事前申込制)

料金 無料(参加費と本展の観覧券(半券可)が必要)

申込締切 5月24日(金)必着

#### ギャラリートーク

展示室にて当館学芸員が展示解説を行います。

4月17日、5月15日、6月12日

いずれも水曜日14時~(30分程度)

申込不要(展示観覧券が必要)

★中学生・高校生向けギャラリートーク

教科書にも登場する、一葉、晶子、らいてう、そして鷗外についてお話しします。

6月23日(日)14時~(30分程度)

申込不要

(高校生以上の方は、展示観覧券が必要です)

#### 地域情報

##### 六義園 「しだれ桜と大名庭園のライトアップ」

3月21日(木・祝)~4月3日(水)



六義園は、徳川五代将軍綱吉の側用人だった柳澤吉保が、下屋敷として与えられた駒込の地に自ら設計・指揮して築いた庭園です。江戸時代に造られた大名庭園の中でも代表的な「回遊式築山泉水庭園」で、造園当時から小石川後樂園(2025掲載)と併せて江戸の二大庭園に数えられました。現在は国指定特別名勝となつています。

庭園の名称は、漢詩集『毛詩』に記された分類法(詩の六義を、紀貫之が和歌に転用した「六体」)由来しており、吉保の和歌への趣味が感じられます。明治に入ると、庭園は三菱の創業者として知られる実業家・岩崎彌太郎の別邸となりました。園内にある高さ15m幅20mの大きなしだれ桜は、春の風物詩として来園者に親しまれています。3月21日から4月3日までの14日間は21時まで延長開園し、しだれ桜を中心に園内がライトアップされます。当館で展示を見たあとは、ぜひ六義園まで足を伸ばしてください。

# 展示報告



### コレクション展

#### 「少しも退屈と云ことを知らず 鷗外、小倉に暮らす」

会期：2019年1月19日(土)~3月31日(日)

森鷗外は明治32(1899)年6月19日、第十二師団軍医部長として小倉に着任しました。今年には鷗外が小倉に赴任して120年の記念の年です。

本展では、小倉赴任中の2年10ヶ月の暮らしを、館蔵資料を使って丁寧に紹介したいと考えました。そこで当館が所蔵する『小倉日記』、『小倉日記附録』3冊を中心とし、『小倉日記附録』の構成にならない『生活、文学』『職務』『史跡探索』の三つに項目立て、展示を構成しました。

『生活、文学』のコーナーでは、東京から遠く離れても雑誌『めざまし草』の発行を継続、九州ならではの著作『久留米彫画家伝』等だけではなく、アンデルセン著『即興詩人』の翻訳を続けたことを紹介しました。また、新たにサンスタリット語、フランス語、神学等を学び始め、地元有志に心理学の講義を行うなど充実した日々を紹介すると共に、小倉の鷗外と東京の家族が手紙を送りあい支えあっていたことを取り上げました。

『職務』のコーナーでは、鷗外が徴兵検査視察や定期の施設巡視などで福岡、佐賀、大分、熊本等の地を踏んでいたこと、小倉での仕事を友人への書簡や、陸軍の上長官会で行った演説の掲載誌から紹介しました。『史跡探索』のコーナーでは、『職務』で様々な場所を訪れたからこそ閲覧できた資料や史跡を、『小倉日記附録』に描かれた鷗外自筆の史跡の図等で示しました。展示室内デジタル端末にて、『小倉日記附録』より『鷗外全集』未収録箇所を画像を全て閲覧できるようにしました。

そして、鷗外の『小倉日記』を現代に伝える一例として、『松本清張と鷗外』『小倉日記』と題し、鷗外ゆかりの清張の小説3作を初出雑誌を通して紹介しました。

『小倉日記』『小倉日記附録』、鷗外が小倉を舞台として書いた小説『鶴』『独身』二人の友は、鷗外が小倉を離れた後にまとめられたものです。鷗外が小倉に暮らした日々を忘れがたく、書き残したいと感じたからこそ、浄写した日記や原稿が現在に残つたと考えられます。

鷗外は明治33年12月、妹・小倉喜美子宛ての書簡に「いかなる境界」にあつても、一日ハ一日文進み行くやう心掛け、勉学を続けていると書いています。展示を通して、鷗外自身が日々努めた結果、少しも退屈と云ことを知らない充実感に満ちた小倉の暮らしを得たことに、改めて気づかされました。

#### 〇ミニ展示ガイドを発行しました。

展示のリード文やキャプション、掲出の年表、『小倉日記附録』の『鷗外全集』未収録の資料図版全24枚を掲載しました。(B5判、15頁、280円)

#### 〇展覧会会期中に、左記の関連講演会を開催しました。

「清張の描いた鷗外」  
日時：2月23日(土)14時~15時30分  
講師：山田有策氏(東京学芸大学名誉教授)

活動報告

クリスマスイベントを

開催しました！

12月8日、9日は昨年引き続き「鷗外マルクトドイッククリスマスマーケット」を、9日には1日限定で「クリスマスコンサート」を開催しました。鷗外マルクトでは、鷗外ゆかりの地であるドイツから、職人手作りクリスマスツリーオーナメントや、くみ割り人形、ドイッワイン、チョコレート、ドイッパン専門店のシュトレンなどを販売しました。中でも、クリスマスツリーに飾ることができるチョコレートは、早い時間に完売となり、早い時間から、会場に集まりました。また、エンタランスにてMOGカルテットによる弦楽四重奏の「クリスマスコンサート」を開催。馴染みのある「カノン」や「アヴェ・マリア」などをお楽しみいただきました。



また、会場満員のなか、最前列では小さなお子さま方が熱心に耳を傾けてくださり、コンサート最後のには、全員で「きよしこの夜」を合唱しました。

満員御礼！落語を楽しむ



鷗外157回目の誕生日を記念して、1月27日に落語イベントを開催しました。漱石が落語に親しんでいたことは知られていますが、実は鷗外も寄席に足を運んでいます。今回の演目は古典落語「明烏」と、鷗外作品「高瀬舟」を題材とした落語の二本立てでした。



出演は、谷根千エリアで活躍する三遊亭らっ好氏。開場前からお囃子が鳴る高揚感のある会場に、参加者の気持ちも高まりま

す。最初の演目は「明烏」。まくらから徐々に参加者の心がつかまれ、本編に入ると数人を演じ分けるテンポよい語り口に一気に引き込まれて、会場は大きな笑いに包まれました。二本目は「高瀬舟」。一本目とは趣が変わり、気持ちを抑えた淡々とした語り口が「高瀬舟」の雰囲気と重なり、静かな作品ながらも参加者の気持ちに響きました。お子さまからご年配まで沢山の方にご参加いただき、大変にぎやかで記念日に相応しい一日となりました。

これからの催しもの

催しは○以外全て事前申込制です。各申込締切日必着でお申込みください。詳細は、チラシやHPをご覧ください。当館までお問い合わせください。★応募多数の場合抽選とさせていただきます。★悪天候等やむを得ない事情により、日程・講師・内容を変更する場合があります。

4月28日(日) / 5月12日(日) / 5月26日(日) / 6月9日(日)

10:30 ~ 12:00 鷗外講座基礎編(全6回)「はじめての森鷗外」

講師：倉本幸弘氏(森鷗外記念会常任理事) 会場：講座室 料金：無料 申込締切：4月15日(月)必着  
4月28日(日) 第1回『舞姫』エリスからの手紙 4月26日(金)必着  
5月12日(日) 第2回『山椒大夫』安寿の眼差し 4月26日(金)必着  
5月26日(日) 第3回『日本からの手紙』妹の進学 5月13日(月)必着  
6月9日(日) 第4回『カズイシチカ』父と息子 5月27日(月)必着

6月2日(日) 14:00 ~ 15:30

展示関連講演会「近代を奔る——葉、晶子、らいてう」

講師：三枝昂之氏(歌人・山梨県立文学館館長) 会場：講座室 定員：50名 料金：無料 ※要本展観覧券(半券可) 申込締切：5月17日(金)必着

6月8日(土) 14:00 ~ 15:30

展示関連講演会「森鷗外と新しい女たち」

講師：尾形明子氏(文芸評論家) 会場：講座室 定員：50名 料金：無料 ※要本展観覧券(半券可) 申込締切：5月24日(金)必着

6月23日(日) 11:00 ~ 17:00

文の京ワークショップ「短冊に願いをこめよう」◎

会場：エントランス 料金：無料

4月23日(火) 11:00 ~ 17:00

文の京ワークショップ「おり紙カーネーションをそえて」◎

会場：エントランス 料金：無料

4月29日(月・祝) 14:00 ~ 16:00

「モリキネ★ブックトーク」

出演：南陀楼綾繁氏(編集者)他 会場：講座室 料金：1000円 定員：50名 申込締切：4月15日(月)必着

文京区内の書店・BOOKS青いカバ、出版社・羽鳥書店の方をお招きし、それぞれの目線から、現在の書籍や出版業界について語り合います。

5月18日(土)、5月25日(土)、6月1日(土) 13:30 ~ 15:30

新・観潮楼歌会「短歌日記とエッセイ」(全3回)

講師：東直子氏(歌人) 会場：講座室 料金：5500円 定員：40名 申込締切：5月7日(火)必着 ※ご応募は、3回ともご参加いただける方に限ります。

歌人・東直子氏と一緒に、エッセイと短歌をつくって楽しみましょう。

5月23日(木) 11:00 ~ 17:00

文の京ワークショップ「キラキラカードを作って送る」◎

会場：エントランス 料金：無料

父の日に向け、キラキラペンやスタンプを使ってカードを送ってみよう！

5月30日(木) 10:30 ~ 14:00

「鷗外文学散策——葉、晶子、らいてう」

講師：倉本幸弘氏(森鷗外記念会常任理事) 定員：15名 行程：団子坂、本郷菊坂、春日 申込締切：5月17日(金)必着 料金：4000円(昼食代、保険料、当日観覧料) ※荒天中止

鷗外と文学上の関わりのある女性たちを紹介しながら、そのゆかりの地を巡ります。

◆◆上記イベントの申込方法◆◆

事前申込制のイベントは、各申込締切日までに下記のいずれかの方法でお申込みください。申込みは、1通につき1名様(はがき・Eメールどちらかお一人様1通まで)、応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。申込締切後1週間以内に抽選結果をお知らせします。

- ①往復はがき 往信に参加希望プログラム名・日程・氏名(ふりがな)・住所・電話番号、返信用には、住所・氏名を明記の上、〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 文京区立森鷗外記念館イベント係までご応募ください。 ※日中に連絡が取れる電話番号をご記入ください。
②Eメール 件名に参加希望プログラム名・日程・本文に氏名(ふりがな)・Eメールアドレス・電話番号を明記の上、bmk-event@moriogai-kinenkan.jpまでご応募ください。 ※参加可否のご連絡をEメールで行います。当館からのEメールが受信可能なEメールアドレスをご記入ください。受信制限が設定されている場合、当館からのEメールを受け取れないことがありますので、あらかじめご確認のうえ送信ください。 ※日中に連絡が取れる電話番号もしくはEメールアドレスをご記入ください。

【ご提供いただきました個人情報は、個人情報保護法に基づき適切に管理し、当該プログラム以外の使用はいたしません。】

ふみの日イベント「愛の詩のこと」

毎月23日に開催している当館のふみの日イベント。パレンタインデーが目前に迫る1月は、モリキネカフェで「愛」をテーマとした朗読会を開催。2回公演はいずれも満席となりました。森鷗外記念会常任理事・倉本幸弘氏による、リルケや立原道造の詩、鷗外作品「舞姫」よりエリスからの手紙の部分などを朗読いただきました。また、朗読の合間に入る藤川大見氏(東京藝術大学在籍で楽曲執筆などで活躍中)のピアノ演奏が加わり、甘くせつない愛の詩が一層盛り上がりました。



文豪の自筆で学ぶ「くずし字」

2月1日と8日の2回にわたり、東京大学准教授・出口智之氏を講師にお招きし、文豪の書いた自筆原稿を読むという講座を、初めて開講しました。

まず、くずし字、変体仮名の歴史を知り、次に実際に変体仮名で書かれた原稿や書簡を読むためのポイントを学びました。そして、漱石「坊っちゃん」、鷗外「舞姫」、露伴「大詩人」の自筆原稿を翻刻するワーキングを行いました。参加者は熱心に翻刻にチャレンジし、パズルを解くかのように、文脈や時代背景が明らかになっていく過程を楽しみながら学ぶことができました。



カフェ便り
モリキネカフェでは期間限定メニューを季節や展示に合わせて提供しています。12月はお馴染みのシュトレンに加え、23日から25日までの3日間限定でトマトスープを販売しました。また、モリキネブレートのヨーグルトをスープに変えた、クリスマスバージョンのプレートも登場しました。



1月19日の鷗外誕生日には、毎年恒例一日限りの特別メニューを販売。鷗外の好物さつまいもを使用し、中には餡が入ったユニークなモンブランと煎茶で157回目の誕生日を祝いました。2月はホットチョコレート(600円)を提供するなど新メニューを展開しています。

4月から始まる特別展「葉、晶子、らいてう——鷗外と女性文学者たち」開催中は、抹茶や餡を使用した、モリキネカフェらしいオリジナリティあふれる春スイーツを提供予定。特別展と一緒に堪能ください。

主な寄贈図書一覧(2018年1月~12月)

左記の貴重な資料を文京区立森鷗外記念館にご寄贈いただきましたことをご報告いたします。鷗外研究のための貴重な資料として、未長く保存・活用させていただきます。

- 【著者寄贈】
横川瑞、佐藤裕亮編「横川唐陽山人詩鈔」本文と解説 論創社 2017年11月
「美術フォーラム21」第35号 神林恒道ほか編 美術フォーラム21 2017年5月 ※田島尚哲著「森鷗外」帝室博物館書目解題再考 収録
星マリナ編「泡沫の歌 森鷗外と星新一をつなぐ」と「小金井喜美子著 新潮社 2018年1月
出口智之著「近代紀行の出版と風景への眼差し——東京を描いた紀行を再考として」(『文芸春秋』月刊第17巻第6号 岩波書店 2016年11月抜刷)
須田喜代次著「果された約束 大下藤次郎と森鷗外」(『大妻大学』第49号 2018年3月抜刷)
内山公正著「我が祖父 唐陽 森鷗外との漢詩交遊を巡って」2016年6月
瀧井敏子著「夏目漱石とクラシック音楽」毎日新聞出版 2018年3月
田中実監修「読む」の術語集 文学研究・文学教育 双文社出版 2014年8月
大西由紀著「日本語オヘラの誕生 鷗外・逍遙から浅草オヘラまで」森社 2018年7月
大野唯吉著「鷗外の手紙」(『長岡同窓会誌』第16号 2018年抜刷)
「地中」通巻553号 日本地図センター編 2018年10月 ※倉本幸弘著「文豪・森鷗外が遺した明治の地図」
斎藤繁著「森鷗外『伊澤蘭軒を読む』文藝春秋企画出版部 2014年7月
【発行所寄贈】
「東洋文化」復刊第114号 無窮舎編 2017年4月 ※「無窮舎の文庫 森鷗外と吉田半次郎」(『無窮舎所蔵の吉田半次郎の鷗外関係資料』鈴木望著 収録)
「生誕140年と謝野晶子展 こよひ逢ふ人みなうつくし」神奈川文学振興会編 県立神奈川近代文学館 2018年3月
「藤島武二展 生誕150年記念(練馬区立美術館 馬場市立美術館 神戸市立小磯記念美術館 編 東京市立美術館 2017年7月)
「埼玉の文学散歩」さいたま市文学館 開館20周年記念誌 さいたま市立文学館編 2017年10月
「森鷗外小倉著作集我をして九州の富人たらしめば」(『森鷗外』北九州市立文学館編 2018年3月)
「北九州市立文学館文庫13」
『明治 BUNGA KUKURI エイターズ 明治150年 特別展 高橋源一郎 日本文学盛衰史』より鎌倉文学館指定管理者ほか編 鎌倉文学館 2018年4月
『松本清張研究』第19号 北九州市立松本清張記念館編 2018年3月
『松本清張記念館 館報』第57号 松本清張記念館編 2018年3月 ※第37回研究発表会講演 松本清張「向像・森鷗外」を讀む」山崎一穂収録
『森鷗外記念館館報』ミヨシアム・データ第22号 森鷗外記念館編 2018年3月
『愛の手紙』第97回 企画展「文学者の様々なかたち」群馬県立土屋文明記念文学館編 2017年7月
『北九州市立文学館ニュース』文学の星第23号 北九州市立文学館編 2018年3月 ※「ヘアーテ・ヴォンテ」さん講演会「収録」
『佐佐木信綱研究』第9号 佐佐木信綱編 佐佐木信綱研究会 2017年12月 ※「日本歌学全集」『萬葉集』刊行の果たした役割 関宮清夫著「小金井素子 忘れられた母の歌」北澤道子著 収録
『田山花袋記念館研究紀要』第6号 館林市教育委員会 田山花袋記念館 1994年3月
『館林市史 資料編』近現代II 証書事件と戦争の記録 館林市史編纂委員会編 館林市 2010年3月
『学習院大学史料館紀要』第24号 学習院大学史料館 2018年3月 ※「学習院所蔵の乃木希典遺書とその周辺」吉廣さやが著 収録
『博物館実習報告』第33号 お茶の水女子大学学芸員課程編 2018年3月
【その他】
『UP』第47巻第1号 東京大学出版会 2018年1月 ※「統計学の日本史の執筆を終えて」予想しなかつた読者評に驚く宮川公男著 収録
『森鷗外の歴史地図 村上祐紀著 翰林書房 2018年2月』拓殖大学研究叢書(人文科学19)
『鷗外・ドイッみやげ3部作』森鷗外著 荻原雄一現代語訳 未知谷 2018年5月
『長沢謙 鷗外文庫』併「近代文芸小叢書」(合冊本 第1号・第54号 尾崎健次、尾崎テル子編 刊 2018年6月)
『漱石の地図帳』歩く・見る・読む 中島国彦著 大修館書店 2018年7月
『森鷗外の独逸体験と東洋』半田美永著 皇学館大学出版部 2012年5月(皇学館大学講演叢書 第132巻)
『鷗外における独逸体験と(東洋)』『舞姫』から歴史小説へ——半田美永著(『皇学館論叢』第45巻 第1号 2012年2月抜刷)
『文化遺産調査特別展 大千住 美の系譜——酒井抱一から岡倉天心まで』足立区立土郷土博物館編 2018年10月
ほか(受入日誌)

# 2019年度前期 文京区立森鷗外記念館 開館カレンダー

**4月**

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

**5月**

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

**6月**

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

**7月**

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

**8月**

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

**9月**

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

特別展「一葉、晶子、らいてう——鷗外と女性文学者たち」  
4月6日(土)～6月30日(日)

鷗外忌記念「遺言書」オリジナル展示  
7月5日(金)～7月31日(水)

コレクション展「文学とビール」(仮称)  
コーナー展示「鷗外のドイツ三部作」(仮称)  
7月5日(金)～10月6日(日)

● 休館日  
☀ 早朝開館(9時開館)

## 編集後記

平成最後の刊行となりました。平成はまさに、技術革新の時代であったと言えるのではないのでしょうか。平成初期に一般に普及し始めたインターネットは現在、私たちの生活に欠かせない道具の一つとなりつつあります。鷗外作品を初めて読んだのはインターネット上だったという人も、すでに存在するかもしれません。当館では、ホームページやフェイスブック、インスタグラムなどのインターネットツールで情報発信を行っています。

当館ホームページに「館蔵品紹介」というコーナーがあります。館蔵資料から、「記念品」「原稿」「書簡」「葉書」「家族資料」「その他」の6項目ごとに、資料画像と解説をアップしているもので、現時点では40点の資料が閲覧いただけます。またこの度新たに、「観光情報」というコーナーを設けました。簡単ではありますがありますが、根津神社や猫の家など当館周辺の見所を紹介しています。

もちろん展覧会やイベントなどの最新情報も随時更新！いつでもどこでも森鷗外記念館をお楽しみいただくと幸いです。



### ●電車をご利用の場合

- ・東京メトロ千代田線「千駄木」駅 1番出口 徒歩5分
- ・東京メトロ南北線「本駒込」駅 1番出口 徒歩10分
- ・都営三田線「白山」駅 A3番出口 徒歩15分
- ・JR山手線・京成線「日暮里」駅 南口 徒歩15分

### ●バスをご利用の場合

- ・都バス 草63番系統「千駄木一丁目」下車 徒歩1分
  - ・都バス 上58番系統「団子坂下」下車 徒歩5分
  - ・B-ぐる千駄木・駒込ルート「18特別介護老人ホーム千駄木の郷」下車 徒歩5分
- ※一般の駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください

〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 TEL: 03-3824-5511  
URL: <https://moriogai-kinenkan.jp>

開館時間 10:00～18:00(最終入館は17:30)

休館日 毎月第4火曜日(祝日の場合は開館、その他例外あり)、  
年末年始(12月29日～1月3日)、及び展示替期間、煙蒸期間等

文京区立  
**森鷗外記念館**  
Mori Ogai Memorial Museum